

令和7年度（2025年度）第1回東海市健康づくり推進会議 会議録

○開催日時 令和7年（2025年）7月31日（木）

午後2時から4時まで

○開催場所 しあわせ村健康ふれあい交流館 多目的ホール（1階）

○出席者氏名

委 員：塚本純子（会長）

原田留美、高木眞子、朝倉直子、杉山勝俊、宝達真志、下村厚子、山下妃呂巳、  
村井 亮太、小林洋介、富山 直輝、神野 真輔、久野彰子、市川智子、  
大嶋一彰、小島なをみ

事務局：健康推進課長 内山貴裕、同統括主幹 柘植由美、

同主幹 長坂友子、同主任指導保健師 大串文子・伊豫田しのぶ、

同統括主任 天野愛作・蟹江孝俊、同指導保健師 小塚恵子

同主任保健師 有田裕紀、同主任 百松遥、同主任栄養士 中村利江、

同歯科衛生士 尾崎麻衣子

○欠席者氏名 高橋智子、樫丈一郎、七尾勝弘、久野文代、早川俊太郎、

加藤剛、宇佐見真二、橘洋子

○公開・非公開の別 公開

○傍聴者の数 0人

○議題及び審議の概要

1 開会

2 委員自己紹介

3 議題

(1) 第2次東海市健康増進計画の評価について

ア 第2次健康増進計画の総合評価

イ 第3次健康増進計画に向けての意見

（事務局説明）

「基本構想の推進項目」について、1点目の「健康寿命」については、男性の健康寿命は、基準値となる平成24年度には、78.55歳だったが、令和6年

度には80.45歳と1.9歳伸びた。女性は、平成24年には82.77歳だったが、令和6年には84.64歳と、1.87歳伸びた。

2点目の「健康づくりの取り組みをしている人の割合」については、平成24年度には49.9%だったが、令和6年度には59.0%と9.1ポイント上昇した。

この2点だけを捉えると、健康寿命の延伸という最大のアウトカムの前提となる、生活習慣の改善とともに、結果として健康寿命が伸びたと分析できる。

(意見交換)

3グループに分かれて事務局から資料に基づき①第2次計画の健康問題・健康課題②施策のありたい姿③今後の方向性④主な取り組み⑤指標の推移について説明をし、第2次計画の総合評価及び第3次計画に向けての意見について話し合いを行った後、その内容を発表、意見交換を行った。

#### Aグループ 【資料4-1-①～③】

**施策名「4-1-① 自分の体をメンテナンスできる人を増やす」について**

- この10年間で健診未受診者に対し、特性を階層化して受診勧奨を実施する等、特定健診や特定保健指導の充実に取り組んできた。結果として健診受診率は上昇した。
- 医療機関との連携もグリーンリーフレットを用いて医療と保健の連携を図る等も影響し、生活習慣の改善に取り組む人の割合も増加した。
- 受動喫煙防止については、喫煙者が減少している。学校での喫煙に関する教育もなされている。
- 第3次計画に向けては、受診率の向上及び生活習慣の改善への取り組み推奨は継続して周知していく必要がある。喫煙対策は、吸える場所を減らしていく、例えば名古屋市は路上喫煙が禁止されたこと、のような環境面からのアプローチが必要ではないか。

**施策名「4-1-② 壮年期をがんから守る」について、**

- がん検診受診率の推移をみると、乳がんと子宮がんの受診率は改善している。

一方で胃がん検診の受診率が低下している。原因ははっきりしないが、職場での検診で胃がん検診を受けている人が、一定数あり、その受診者数は含まれていないことが影響しているのではないかと考える。

●引き続き、がん検診に関する情報提供や検診を受けやすい環境整備が必要である。

●第3次計画においては、胃・乳房・子宮に加えて肺及び大腸を加えた5つのがん検診を評価していく。そのうち胃がん検診については、従来のバリウム検査と内視鏡検査を分けて評価するべきだと考える。

**施策名「4-1-③ おいしく食べ、おもいきり笑えるお口をつくる」について**

●むし歯予防に関しては幼児期からのフッ化物塗布に取り組んできた。中学生は授業時間の都合上フッ化物洗口は実施できなかった。

●歯周病検診は、指標の改善（中学生の歯肉炎の罹患率の低下）があり、取り組みが功を奏している。また、かかりつけ歯科医があるかないかによって受診率が違うため、かかりつけ歯科医を持つことの重要性の啓発も必要である。

●第3次計画に向けては、高齢者の口腔機能低下をいかに防いでいくかがテーマとなってくるため健口体操の普及など市の事業に参加しやすい仕組みづくりが必要である。

#### Bグループ 【資料4-2-①～4-2-③】

**施策名「4-2-① 体を動かすことの楽しさを知る機会を増やす」について**

●ウォーキングイベントの周知方法としてSNSや公式LINEを活用するようになった。参加者に対しインセンティブを付加することで楽しく参加できるような働きかけを行った。

●ウォーキングなどの運動に取り組んでいる人の割合は、コロナ禍の影響を受けずに増加してきた。

●指標10について、令和5年から明らかに低下しているが、これは夏場の高

温が影響し、夏季に中断してしまうことが影響しているのではないか。

●第3次に向けては引き続きウォーキングの推進、運動施設の充実、SNSを活用した情報提供を展開していくことが必要である。

**施策名「4-2-② 運動に取り組みやすい場を充実する」について、**

●運動習慣が自然に身につくことを目標に、トレーニングルームの充実や膝に負担が少ない歩道の整備等を実施してきた。グランドゴルフ場の整備は荒尾グランドゴルフ場のみにとどまっている。

●指標12の大幅な減少は市営温水プールの閉鎖が影響している。

●市営温水プールの跡地利用について、市内の大学生の意見をもらいながら市民が使いやすい施設の検討を進めてほしい。

**施策名「4-2-③ グループ(企業・団体)活動を推進する」について、**

●企業との連携や市民団体との連携を図ってきた。ウォーキングの主催者数は横ばいだが、参加者数の減少がある。高齢者の移動手段の問題も影響しているのではないか。

●しかし、指標14の地域や会社が企画するイベントの参加者数が減少しているだけで、指標9のウォーキング人口自体は減っていないことから、魅力あるイベント、SNSによる周知、家族時間を増やせる取り組みを第3次計画には期待したい。

Cグループ 【資料4-3-①～4-5-①】

**施策名「4-3-① 適量やバランスを意識する機会を増やす」について**

●これまで、子ども向け、大人向け、高齢者向け等ライフステージに沿ったアプローチを行ってきた。トマトを活用した啓発は東海市の特徴であり積極的に取り組んできた。

●指標の評価として、例えば5%の伸びが大きいのか小さいのか分かりにくく、どの程度を目指しているのかを明確にできると良い。

●また、野菜摂取量の増加に関して、トマトやトマトに関連して啓発ができた

が、野菜摂取の指標が見えにくいため、目安があると良い。

#### 施策名「4-4-① 交流の場・活動の場を充実する」について

●情報の一元化や担い手育成、交流の場の充実を行ってきた。指標17は平成30年頃までは50%程度を維持していたが、それ以降減少し、令和6年度は大きく減少している。現場の感覚としては、ここまで低下している実感はなく、低下した原因もわからない。年代別で分析すると見えてくるものがあるかもしれない。

●コロナ禍を機に地域活動をする層が変わってきたのではないか。健康をテーマにすると関心がある人が集まるのではないか

●評価に使用している指標を市民の属性(年代や性別等)で分析できるとよい。また、市民の関心が向きやすい「健康」等を題材にすることで、地域活動等がさらに活性化できるのではないかと考えられる。

#### 施策名「4-5-① 規則正しい生活習慣を身につける」について

●就寝時間について、3歳児に変化がないことは、共働きの世帯が増え、保育園から帰宅して家事をこなしていくと、どうしても時間が後ろにずれていくのではないか。いずれにしても30%相当を維持できていることは評価できる。

●朝食の摂取率の改善については、頭打ちだろう。

●第3次計画に向けては、保育園が様々な情報を持っているため保育園との連携が重要である

●肥満の児童の増加という課題もあるが、運動面だけでは改善が難しいため、この点においても食事面の啓発の重要性が高い。

## 7 その他

### (1) 第3次健康増進計画策定について

本日お配りしました「第3次東海市健康増進計画」は、先ほどまで委員の皆様にご議論いただきました「第2次東海市健康増進計画」の健康づくりの方向性を継続し、市民一人ひとりが健やかな体と豊かな心を育み充実した人生を送れるように、令和7年度からスタートした計画でございます。

次の第2回会議から第3次計画の内容についての議題となりますので、お時間のあるときに一度お目通ししていただきますようお願いいたします。

(2) トマト de 健康フェスティバル事業について

8月31日まで開催しておりますので、気になるお店に足を運んでいただければと思います。

(3) 今後の会議の予定

第2回 令和7年（2025年）10月30日（木）

第3回：令和8年（2026年）2月26日（木）

8 閉会